大阪国税局長賞

社会のために使われる税金

三郷町立三郷中学校３年
池本　桃夏

私は、税金の使い道である医療費助成制度に大変恩恵を受けました。私が住んでいる町では、親の所得に関わらず、高校生まで全額の医療費助成があります。私は小学校六年生のときに、「成長ホルモン分泌不全性低身長症」であると診断されました。この病気は、成長ホルモンを補うために、毎晩寝る前に自己注射を打たなければなりません。注射の薬は高額で、一か月に四万円近くかかります。

この治療は何年続くかが分からないので、もし医療費助成制度がなければ途中で断念していたかもしれません。しかし、医療費助成制度のおかげで二年半の治療を継続することができ、私は平均に近い身長まで伸びることができました。

私はこの治療を受ける前から、医療費助成制度があることを知っていましたが、あまり興味を持っていませんでした。しかし、こんなに高額な治療にでも医療費が全額返ってくると知り、本当にすごいなと驚くとともに、感謝しました。

私は医療費助成制度について詳しく知りたいと思い調べました。医療費助成制度は、診察を受けられずに亡くなる子どもを救うために一九六〇年代に始まり、一九九〇年代半ばには全都道府県に広まりました。現在、都道府県が持つこの制度を、市区町村が政策や財政力に応じて拡充していることが多く、同じ都道府県でも市区町村によって助成内容が異なります。

子育てを支援し、子どもの医療費を助成するという趣旨は良いことですが、課題もあります。医療費助成が受けられない年齢の、重度の疾病を抱えた若者もいる中で、限りある財源で子どもだけを助成していいのか、今後も継続できるのか、医療費助成よりも、親の不安解消のための相談窓口の設置や、貧困対策を優先するべきではないのか、子どもの健康増進を目的とするならば、妊産婦への補助や子どもに向けた食事面、運動面での補助を行った方が効果的なのではないかなどが挙げられています。

私は医療費助成制度があって本当に良かったなと思います。しかし、課題もあることを知り、誰もが納得する制度に変わっていけばうれしいなと思います。医療費助成制度をさらに充実させるためには、増税をすることも選択肢の一つになると思います。もし増税したとしても、自分のためでもあると思うので、素直に受け入れるべきだと思います。税金を支払うことは、非常に重要なことだと思います。

こういった医療費助成制度を継続させるためにも、今私が直接支払う税金は消費税だけですが、社会人になって納税することになったら、誰かの役に立てるんだと思い、喜んで納税したいです。一人一人が税に関心を持ち、納税をして人の役に立てることを誇りに思えるような社会を作っていくことが大切だと思います。

これからも税金のしくみや種類について、社会人になったときに困ることのないように学び、理解していきたいと思います。